

学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名 (総合科学部・総合科学教育部)

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項 (問題点・優れた点等)	対応計画等	
○学生生活上の問題について (Q1-1～Q2-2) 迷惑行為を受けたことがある学生の大部分は友人や先輩に相談しており、相談室を利用した学生が非常に少ない (学部生1名, 大学院生0名)。	困ったことがあった時には相談室を利用するように周知を図る。具体的には、掲示板に相談室のポスターを張る。	「緊急時・問題発生時連絡先」を作成し、掲示済み。
○学内における各種お知らせについて (Q3-1～Q3-6) 学部学生の4分の1, 大学院生の3分の1が掲示板を確認していない。学部生・大学院生とも、「確認している」と回答した人の約半数は月に一回以下。「確認していない理由」は、「確認する習慣がない」。学務システムからのメールによる連絡も、学部生の3分の1, 大学院生の14%が「確認していない」。	1年次のうちから毎日一度は掲示板を確認する習慣をつけるように、大学入門講座などの機会に周知を図る。掲示板の場所についても周知する。学務システムでメールをきちんと受信するように指導する。	次年度のSIH道場で対応予定
○クラス担任制度について (学部のみ) (Q4-1～Q4-3) 学部生の81%が担任制を活用していない。	活用しない理由については調査されていないので不明だが、学修上とくに問題がない場合には、相談する必要がないのだと思われる。相談した場合の満足度は非常に高く、「不満」「やや不満」と回答した人はそれぞれ1名ずつである (「満足」「やや満足」は28名, 「普通」が6名)。現状のまま、しばらく様子を見たい。	左記のとおり。
○就職活動 (研修医マッチングを含む。) について (Q5-1～Q8) 「自分の就職活動の満足度」で「不満」「やや不満」は、学部生の場合あわせて5% (12名), 大学院生の場合「やや不満」が5% (2名) と、かなり少ない。「売り手市場」でそこそこ満足できる就職ができた学生が多いのではないと思われる。「徳島大学の就職支援」についても、「不満」「やや不満」はあわせて4% (10名), 大学院生は「やや不満」が7% (3名) と、やはり少ない。	現状の「就職支援」は「普通」以上の評価を受けているようなので、しばらくは現状のまま様子を見たい。	左記のとおり。

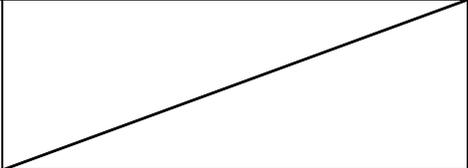
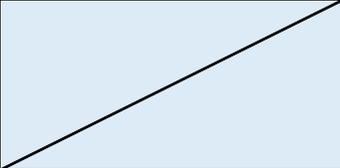
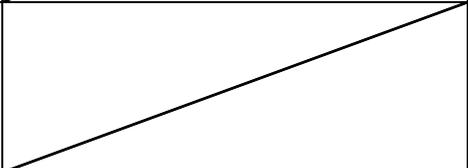
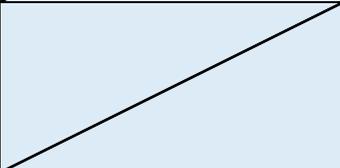
学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名（ 医学部医学科 ）

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項（問題点・優れた点等）	対応計画等	
○学生生活上の問題について（Q1-1～Q2-2） 何か問題があった際にどこにも相談しなかった学生が6割を超えていた。	ハラスメント対応を含め相談窓口を明確化する。 成績に関する異議申し立て方法を明確化する。 これらをオリエンテーションで学生に説明する。	相談窓口について、オリエンテーションで説明する予定。 成績に関する異議申し立てについて、規則を作成し、学生に周知した。
○学内における各種お知らせについて（Q3-1～Q3-6） お知らせを確認していた学生が7割を超えていた。	Cアカウントメールのさらなる利用徹底を学生に周知する。	Cアカウントメールの利用徹底について学生に周知した。
○クラス担任制度について（学部のみ）（Q4-1～Q4-3） 学生への認知度が低い。	1～2年次は基礎系教授によるグループ担任制を継続する。医学研究実習における諸問題について学生が相談しやすくするため、3年次は医学研究実習配属分野教授ではなく、基礎系教授による医学研究実習中間ヒアリング担当をクラス担任制度での担当とする。4～6年次は、4年次に決める臨床系メンターが卒業まで担当することにする。	クラス担任について、オリエンテーションで説明することとした。
○就職活動（研修医マッチングを含む。）について（Q5-1～Q8） 自分の就職活動に対して、過半数が満足していた。	卒後臨床研修センターと連携して、今後も就職活動を支援していく。	卒後臨床研修センターと連携して、今後も継続して就職活動を支援していく。

学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名（医科学教育部）

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項（問題点・優れた点等）	対応計画等	
<p>○学生生活上の問題について（Q1-1～Q2-2）</p> <p>迷惑行為の相談体制について、友人から、大学に相談したところ、うやむやにされたことがあると聞いたとの回答があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の周知の徹底。 ・研究指導ガイドラインにより、主指導教員、副指導教員、アドバイザー教員による複数指導体制をとるようになったことにより、学生が研究しやすい環境を整える。 	<p>研究指導ガイドラインにより、主指導教員、副指導教員、アドバイザー教員による複数指導体制をとり、学生が研究も相談もしやすい環境が整えられつつある。</p>
<p>○学内における各種お知らせについて（Q3-1～Q3-6）</p> <p>教務事務システムからcアカウントによる大学からのメール発信について、100%の学生が確認している。</p>	<p>学生が教務事務システムを有効利用しているので、引き続き教務事務システムでの情報発信と、新入生に向けてもオリエンテーションでcアカウントでのメール発信について確認するよう周知する。</p>	<p>修士課程、博士課程の留学生については教務システムを有効に利用している。博士課程の社会人大学院生について、引き続き教務システム利用についての周知を行うことと、4月の新入生オリエンテーションで新入生向けに案内をする。</p>
<p>○クラス担任制度について（学部のみ）（Q4-1～Q4-3）</p>		
<p>○就職活動（研修医マッチングを含む。）について（Q5-1～Q8）</p> <p>希望の就職ができたので満足、やや満足との回答があった。</p>		

学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名 (医学部医科栄養学科)

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項 (問題点・優れた点等)	対応計画等	
<p>○学生生活上の問題について (Q1-1~Q2-2)</p> <p>迷惑行為については、個々人で感じ方も違うと思われる、具体的な事例について問うていないアンケートではわからない。</p> <p>「先生に対して学生が多すぎるにより、教育の質が下がると感じた。」というのは教員側でも近年、痛感している事実である。</p>	<p>迷惑行為については、このアンケートで対応計画を立てるのは不可能である。</p> <p>教員数が減少しすぎであると思われる。ある分野は2年前とくらべ教員数が半減してしまっている。</p>	<p>教員数は減少したままである。</p>
<p>○学内における各種お知らせについて (Q3-1~Q3-6)</p> <p>掲示板よりもメールでの通知の方が確認の割合が高い。</p>	<p>従来通り、掲示板とメールを併用する。</p>	<p>Cアカウントメールの利用について学生に周知した。</p>
<p>○クラス担任制度について (学部のみ) (Q4-1~Q4-3)</p> <p>クラス担任制を活用した人の満足度は100%であり現状維持が必要である。</p>	<p>教員数の減少に伴い、クラス担任制の現状維持が困難となりつつあることに対する対応が必要と思われる。</p>	<p>クラス担任について、オリエンテーションで説明する予定である。</p>
<p>○就職活動 (研修医マッチングを含む。) について (Q5-1~Q8)</p> <p>蔵本地区でのキャリア支援室の利用機会が少ない。</p>	<p>蔵本地区でのキャリア支援室の活動を増やしてもらうような要望が必要と思われる。</p>	<p>令和元年12月実施の医科栄養学科教員会議において、蔵本地区でのキャリア支援室の活動を増やしてもらうよう要望を行った。</p>

学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名（ 栄養生命科学教育部 ）

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項（問題点・優れた点等）	対応計画等	
○学生生活上の問題について（Q1-1～Q2-2） ・学生支援体制については、概ね満足できている。問題があった時の相談体制についても概ね活用されている。	特になし。	特になし。
○学内における各種お知らせについて（Q3-1～Q3-6） ・学内の掲示物の確認をしていない学生が半数弱いるが、cアカウントのメールの確認は9割近い学生が行っている。	・ほとんどの学生がcアカウントのメールは確認するようにしているので、掲示物の内容についても可能な限りメールで配信することを検討する。	メールで情報の配信を行っている。
○クラス担任制度について（学部のみ）（Q4-1～Q4-3）		
○就職活動（研修医マッチングを含む。）について（Q5-1～Q8） ・概ね自身の就職活動にも、本学の就職支援についても満足している。一方で、蔵本地区での説明会が少ないことや、OB、OGとの連携、就活費用、就職活動情報に課題がある。	・蔵本地区での説明会は、キャリア支援室などとも検討する。OB、OGとの連携は、同窓会の活動に積極的に参加してもらえるように情報提供を行うことを検討する。	医科栄養学科教員とキャリア支援室と今後の大学院生への支援について検討を行った。また、キャリア支援室から就職活動を終えた大学院生にヒアリングを行ってもらい、学生のニーズの把握を行った。

学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名（ 医学部保健学科 ）

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項（問題点・優れた点等）	対応計画等	
<p>○学生生活上の問題について（Q1-1～Q2-2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内での迷惑行為を受けたとした学生は、全体の3%で、全員が教員、事務、友人のいずれかに相談していた。友人に相談したとした学生は1%（1人）で、学内での対応には至っていなかった。 ・学生支援に対する評価については、約半数（48%）の学生が満足、やや満足としており、普通とした学生は44%であった。不満とした学生は1%、やや不満とした学生は5%と少なく、この点は優れた点といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内での迷惑行為について、教員、事務に相談しなかった例があるため、各専攻におけるクラス担任による面談時に確認することとする。また、各学年のオリエンテーション時に学内の相談体制について、周知することとする。 ・不満、やや不満とした理由の殆どが事務の対応についてであり、窓口対応の悪さや日程等の連絡が遅いといったものであるため、満足とする学生の割合が増えるよう担当係に於いて問題点を共有し、迅速で学生の立場に立った対応を心がけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談のために従来から用意している標準質問シートに迷惑行為の項目を追加した。学内相談体制を年度始めに周知するようクラス担任に通知する申し合わせ手順を文書化した。
<p>○学内における各種お知らせについて（Q3-1～Q3-6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内掲示板を確認していないとした学生が全体の41%であったことは問題点と言える。また、確認しているとした学生のうち、ほぼ毎日が2%と少なく、週に1回とした学生は28%であった。 ・教務事務システムによる情報発信について、確認していたとした学生は77%であったが、確認していないとした学生が15%あり、教務事務システムによる情報発信については個人宛、また、至急の連絡もあり、確認していない学生がいることは問題点である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、学生全員に周知が必要な連絡は、殆どが教務システムにより通知しており、学内掲示を確認する必要がある場合も教務事務システムにより学内掲示板を見るよう通知しているが、教員が直接、学内掲示板に連絡事項を張り出す場合もあるため、学内掲示板の確認も必要である。 ・入学時のオリエンテーションでは新入生に毎日学内掲示板を確認するよう周知しているが、掲示板を確認しなかった学生の73%が「習慣がなかった」と回答しているため掲示板を見る習慣を付けるよう各学年の学期始めに教務事務システムにより掲示板の確認について通知する。 ・各専攻の各学年オリエンテーションにおいて、教務システムによる連絡、学内掲示板の確認について周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務事務システム及び学内掲示板の確認について学期始めに周知する申し合わせ手順を文書化した。
<p>○クラス担任制度について（学部のみ）（Q4-1～Q4-3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の41%の学生がクラス担任制を利用しており、そのうち、約8割（79%）の学生が、満足、やや満足と回答していた。不満とした学生はなく、やや不満とした学生も2%のみであり、この点は優れた点といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション及び各専攻における学年毎のクラス担任による面談等を引き続き実施し、クラス担任制の周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制度を年度始めに周知する申し合わせ手順を文書化した。
<p>○就職活動（研修医マッチングを含む。）について（Q5-1～Q8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生のうち、就職支援について、満足、やや満足とした学生は42%であった。普通とした学生は37%、無回答17%であったが、不満とした学生はなく、やや不満とした学生は4%と少なく、この点は優れた点といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やや不満とした理由は、もう少し早い段階から、情報が欲しかったということである。また、就職活動で困ったこととして面接の対応、履歴書、エントリーシートの書き方、就職情報の収集等を挙げており、これらの点について、引き続き、所属学科の教員、事務がキャリア支援室と連携し対応することとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応計画の通り実施している。

学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名 (保健科学教育部)

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項 (問題点・優れた点等)	対応計画等	
<p>○学生生活上の問題について (Q1-1~Q2-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修了生のうち、学内で迷惑行為を受けたとした学生は、全体の8% (1名)であったが、総合相談室に相談し、解決したと回答している。学内の相談体制が機能しており、この点は、優れた点といえる。 ・ 学生支援に対する評価については、修了生の83%が満足、やや満足としており、残り17%の学生は普通との回答であった。やや不満、不満と回答した学生はなく、この点は、優れた点といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内の相談支援体制や教育部の研究指導体制について、引き続き、入学時のオリエンテーション等で説明、周知することとする。 ・ 学生支援に対する評価について、不満、やや不満と回答した学生はなく、8割以上の学生から満足、やや満足と回答があったが、更に満足、やや満足とする学生の割合が増えるよう学生対応に務めることとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度新入生オリエンテーションにおいて学内の相談支援体制について説明するとともに、教育部の研究指導体制について説明する際にアドバイザー教員の役割についても説明することとした。
<p>○学内における各種お知らせについて (Q3-1~Q3-6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内掲示板について確認していないと回答した学生が33%、また、教務システムのcアカウントによるメールを確認していないとした回答した学生が17%あり、この点は問題点といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院生については、社会人学生も多く、学内掲示板を確認することは難しい場合もあるが、教務システムによる通知は、学外でも確認できるため、教務システムによるメールの個人メールへの転送等についてオリエンテーション等で周知徹底することとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度新入生オリエンテーションにおいて、各種お知らせの重要性について説明するとともに、学内掲示板及び教務システムによる通知の確認について周知徹底することとした。
<p>○クラス担任制度について (学部のみ) (Q4-1~Q4-3)</p>		
<p>○就職活動 (研修医マッチングを含む。) について (Q5-1~Q8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の就職活動に対する満足度及び就職支援に対する評価について、無回答がともに42%と多くなっているが、社会人学生が多いためと思われる。 ・ 就職支援に対する評価について、無回答は42%であったが残り58%はすべて普通と回答しており、そのほぼ半数 (3名) がその理由として「特に利用していない」と回答している。教育部の特性もあり就職先が限定されるということもあるが、就職情報の周知方法について検討が必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職支援に対する評価で、不満、やや不満とした回答は無かったが、普通と回答した学生の中で特に利用しなかったとした学生の割合が高かったため、大学及び教育部の就職支援体制について、オリエンテーションや各専攻領域において周知することとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度新入生オリエンテーションにおいて学内及び専攻内各領域の就職支援体制について周知徹底することとした。現在も必要な場合には指導教員等による就職相談を行っているが、教員と相談できる体制があることも周知する。

学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名 (歯学部)

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項 (問題点・優れた点等)	対応計画等	
<p>○学生生活上の問題について (Q1-1～Q2-2)</p> <p>ハラスメントを受けたことのある学生が7人 (18%) いたことは決して少ない数ではない。その中でクラス担任、友人等に相談し、6人が解決したことは良い点であった。学生支援における評価ではほぼ6割が満足・やや満足であった。しかし総合相談室への相談が0%であったことは今後の改善が必要である。</p>	<p>総合相談室ではどのような対応をしているかについてあまり周知されていないようなので、オリエンテーション等でしっかりと説明する。</p>	<p>クラス担任、総合相談室とそれぞれ異なる相談先のあることを、次年度のオリエンテーションで内容も含めて紹介する予定である。</p>
<p>○学内における各種お知らせについて (Q3-1～Q3-6)</p> <p>掲示板の確認を行っていない学生が38%であり、その理由が「習慣がなかった」が最も多く、さらにcアカウントメールについても確認している学生は38%であった。</p>	<p>大学からの通知が重要であることを認識させ、常に確認するよう年度初めのオリエンテーションで周知させる。</p>	<p>Cアカウントの使用方法について、オリエンテーションを利用し、通信方法の説明を行う。</p>
<p>○クラス担任制度について (学部のみ) (Q4-1～Q4-3)</p> <p>クラス担任制度を利用した割合が46%で、そのうち満足・やや満足を合わせると78%であったことは良い結果であったと思われる。</p>	<p>さらに多くの学生がクラス担任制度と総合相談室を利用しやすくなるように、クラス担任からも総合相談室がどのような事例に対応しているかなど可能な範囲で学生に知らせる。</p>	<p>年度の初めに、クラス担任より具体例も交えて制度の説明を行う。</p>
<p>○就職活動 (研修医マッチングを含む。) について (Q5-1～Q8)</p> <p>例年、10人程度の卒業生を講師として招き、進学就職ガイダンスを行っている。卒業後さまざまな方向に進んでいる先生方の話は学生にとっても有益と考えられ、アンケートではほとんどの学生が満足・やや満足であった。</p>	<p>進学就職ガイダンスを継続するが、さらに多くの学生が参加できるよう工夫する。</p>	<p>令和2年度も11～12月頃に進学就職ガイダンスを開催するが、4,5年生だけではなく、1～3年生も参加しやすいような工夫をする。</p>

学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名 (薬学部・薬科学教育部)

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項 (問題点・優れた点等)	対応計画等	
<p>○学生生活上の問題について (Q1-1~Q2-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部学生8名 (17%) , 大学院生8名 (36%) がハラスメント等の迷惑行為を受けたと回答している。迷惑行為を受けた学生のうち、学部3名、大学院4名が誰にも相談していない。相談した学生では9名中7名が問題の解決に至っていること、また解決しなかった2名は友人・先輩に相談していたことを考えれば、クラス担任や学務係を相談相手として利用しやすい環境づくりに努める必要がある。 ・大学における学生支援に対して不満を感じていると回答した学生が、大学院ではいなかったが、学部では5名 (11%) いた。また、総合相談室の利用はいずれも無かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・迷惑行為根絶に向け、一層の注意喚起を行い、教職員ならびに学生の意識をさらに向上させる。 ・相談窓口として、クラス担任や学務係、学生相談室の有効利用を促す啓発活動・周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月開催の教職員会議において、迷惑行為根絶に向けての対応策について検討し、各学年の後期最初の授業時に、教員から学生に迷惑行為根絶に向けての注意喚起を行った。 ・新年度オリエンテーション時においても同様の説明を行うこととした。 ・相談窓口としてのクラス担任や学務係、学生相談室の有効利用についての周知を行った。
<p>○学内における各種お知らせについて (Q3-1~Q3-6)</p> <p>掲示及びメールどちらも確認していない学生が学部、大学院に各2名おり、その理由として習慣がなかったと回答している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学からの連絡確認に常に留意し、「知らなかった」ということがないように、改めて注意喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学務係や授業担当教員からの連絡に回答のない学生については、学務係から注意喚起を行った。
<p>○クラス担任制度について (学部のみ) (Q4-1~Q4-3)</p> <p>活用状況は低い (16%) が、活用した学生からの評価は良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生にクラス担任制度の趣旨を周知徹底するとともに、教員には学生の活用促進に向けた対応を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月開催の教職員会議において、クラス担任制度の趣旨の周知方法について検討し、各学年の後期最初の授業時に、教員から学生にクラス担任制度の説明を行った。 ・新年度オリエンテーション時においても同様の説明を行うこととした。
<p>○就職活動 (研修医マッチングを含む。) について (Q5-1~Q8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動の満足度では、回答した48% (学部) および60% (大学院) が満足で、不満は0% (学部) および10% (大学院) ということから、(他は「普通」と回答) 現時点では就職活動については上手く対応できていると考えている。 ・就職支援についても、回答した48% (学部) および40% (大学院) が満足と答え、不満はともに0%であった (他は「普通」と回答) ことから、現状維持で問題無いと考える。 ・キャリア支援室に対しては、「相談に乗ってもらえた」事に対する感謝が利用者から示されていた。 ・就職活動で苦勞した点としては、学部では過去のデータが少ないこと、授業との重なり、また大学院では研究室が多忙である事が挙げられていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の就職支援体制には大きな不満がないことが明らかになったことから、今後も現状の就職支援体制を維持していきたい。 ・6年前期の科目が就職活動の妨げになるという意見があるが、欠席時の対応を十分にとることで対応していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月開催の教職員会議において、引き続き、現在の就職支援体制を維持していくことを確認した。 ・6年前期の授業科目「演習Ⅱ」において、欠席時の対応について学生に周知することとした。

学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名（工学部・先端技術科学教育部）

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項（問題点・優れた点等）	対応計画等	
<p>○学生生活上の問題について（Q1-1～Q2-2）</p> <p>（いずれについても回答数が少ないため、学部・大学院の全体的な傾向を反映しているかはやや不明な点が残るが）</p> <p>迷惑行為とその解決について、大半の学生は迷惑行為そのものを受けたことがなく、また受けた場合でも友人・先輩や大学のしかるべき機関等に相談した上で解決に導いており、大きな問題とはなっていない。</p> <p>大学の学生支援に対する評価については、学部生・大学院生共に「不満」「やや不満」が合わせて1割程度見られる。記された具体的内容としては、事務手続上の問題に関するもの他、就学支援（奨学金）の充実・運用改善、個々の教職員による対応の差などがあった。</p>	<p>迷惑行為の防止については、引き続きオリエンテーションやポスターの掲示等により注意喚起を行う他、相談窓口（総合相談室等）の存在をアピールすることで、大学としての支援体制の存在を浸透させる。また、クラス担任制度の活用によって悩みを抱えた学生の早期発見・対応に努める。</p> <p>学生支援については、事務手続の改善について掲示板や学生ポータルより一層の活用を周知する他、可能な部分から手続の電子化を今後検討する。また、教職員FD・SDの機会を捉えて学生への対応のあり方について研修等を行う。</p>	<p>迷惑行為の防止について、共通講義棟1階モニターやポスター掲示を通じて注意喚起を行った。また、クラス担任制度によって悩みを抱えた学生に対する相談に乗ったり、場合によっては専門窓口（キャンパスライフ健康支援センターや総合相談室等）を紹介するなど、引き続き対応に努めている。</p> <p>学生支援については、連絡事項について可能な限り学生ポータルを活用する他、ポスター等も利用するなど、引き続き周知方法の改善に努めた。</p>
<p>○学内における各種お知らせについて（Q3-1～Q3-6）</p> <p>学部学生及び大学院生共に、掲示板を確認していない学生がある程度いることが確認できた。また、掲示板を確認している学生においても、ほぼ毎日確認している者がいる一方で、「週に1回」、「月に1回」、「ごく稀に」確認する程度といった者も少なくない。</p> <p>（なお、本アンケートは、卒業又は修了年次の学生を対象としたものであり、就職活動や教育実習、卒業研究等で大学に来ない・来れない時間が多かった当時の状況を主として回答している可能性もある程度は含まれてしまっているように思われる。下級年次の時はより高い頻度で確認していたかもしれないが、本回答結果からは、その点までは分からない。）</p>	<p>掲示板の確認は毎日必ず行うように、入学時のオリエンテーションで教員から説明している。進級時にもオリエンテーションを行っているコース・系については、進級時のオリエンテーションでも再周知してもらおう。</p> <p>また、専門教育科目の担当教員にも各学期の初回授業時に再周知してもらおう。</p> <p>掲示板の確認については、学生の自己責任ではあるが、履修、進級及び卒業等、重要事項についての全体的な案内を行うこともあり、学生には確認してもらっている・周知済みということを進んでいく内容のものもあることから、習慣が無いのであれば習慣付けてもらうように、引き続き対策を検討する。</p>	<p>理工学部では掲示物のあるときはコース事務室に依頼するなどして主に使用する建物で掲示を行うようにし、学生が見やすいよう対応している。また、2018年度入学生から原則として教務システムを確認するように指導している。「掲示板」だけでなくITを用いた効率的な周知方法を採用し、学生の就学スタイルに応じて情報を確実に得られるように対応する。なお、教職志望学生など特定多数の学生に対しては説明会の都度掲示板の設置場所を案内して、漏れの無いようにしている。なお、今後のアンケートでは掲示板に特定しないようにしていただきたい。</p>
<p>○クラス担任制度について（学部のみ）（Q4-1～Q4-3）</p> <p>入学時から卒業又は修了時まで活用しなかった学生が、ある程度いるということが確認できた。ただ、クラス担任には特に相談することなく、その時々に関係する教職員や部署等に相談したり、自ら進んで勉強や就職活動等に取り組んだ学生も少なからず含まれるものと思われることから、クラス担任制の活用割合が低いことが、悪いものとは限らないと考える。</p> <p>本アンケートに回答した学生において、クラス担任の対応に不満を持った者がいなかったということは、幸いだった。</p>	<p>教員側においてクラス担任制度について適切な運用を行っており、制度自体は有用なものであるとの認識で共通している。</p> <p>学生の要望次第では、クラス担任では対応しきれず、学生にとっては満足できないものもあるかもしれないが、結局は個別事案へその都度対応していくものであることから、現状では問題点が特に見受けられない以上、対応計画を立てることは困難である。全体的に対応が必要な事案が生じた際には、改めて対応策を検討する。</p>	<p>学生からの相談または申入れに際し、多様な窓口が用意されている。コース毎の教務委員や学生委員、クラス担任、さらに少人数を担当するアドバイザーなどがあり、加えて履修相談室、総合相談員などがいる。学生の希望に沿って対応できるよう継続して運用する。</p>
<p>○就職活動（研修医マッチングを含む。）について（Q5-1～Q8）</p> <p>就職活動の満足度について、志望する企業へ就職できた場合に満足度の高い傾向が読み取れる。一方、十分な準備をしなかったり、志望する企業に落ちた場合に不満との評価となっている。</p> <p>大学の就職支援については、学部生はあまり利用していない・利用の仕方がわからないとの声が多く、一方大学院生は肯定的な意見（独自の進路が見つけられた、等）と不満（職員の対応、大都市での宿泊施設、等）が混交している。</p> <p>就職活動で苦勞したことは、宿泊・交通費の負担をあげる声が多く、また、就活に関する講座の設定やキャリア支援室の予約に関して講義等と重ならないよう設定して欲しいとの要望があった。</p>	<p>学部生に対するキャリア支援室の認知度を高める必要がどうかがある。新入生オリエンテーションで紹介をしているが、就活が本格化する前の3年進級時のオリエンテーションでも再度宣伝をすると共に、学科・コース等の掲示板に支援室のポスター等を掲示する。さらに、利用方法がわからないままで訪問しても構わないことを伝える。</p> <p>キャリア支援室に対する学生の要望については、支援室と適宜情報を共有し、改善の可能性について相談・検討する。</p>	<p>キャリア支援室について、共通講義棟1階モニターを利用した紹介を行った。</p> <p>年度内にキャリア支援室スタッフとの意見交換を行い、情報を共有した。</p>
<p>○特記事項：回答回収率の向上策について</p>	<p>基本的に、指導教員・研究室を通じて調査を依頼する。そのため対象学生が研究室に来なくなる前（例えば卒・修論再提出前）に余裕をもって依頼する。その他、卒論発表会・修論公聴会の場を利用してアナウンス・記入させるなど、コースの実情に合わせて実施方法・時期を設定する。</p>	<p>対応計画に記載した事項を実施予定であったが、今年度は調査を実施しないことに決まった。今後、学生を対象にアンケートを実施する際には実施方法等について検討した上で行う。</p>

学生支援に関するアンケートの結果に基づく対応について

部局名（ 高等教育研究センターキャリア支援部門 ）

アンケート結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実施の進捗状況等
事項（問題点・優れた点等）	対応計画等	
○就職活動（研修医マッチングを含む。）について（Q5-1～Q8）		
1) キャリア支援室が利用しにくい。 一部の学生から、部屋に開放感が少なく、相談体制が1対1での対応となっていることから、利用しにくい、入りづらいという意見。一方、利用した学生からは、職員の対応について好意的な回答も多い。	1) の対応計画 ①キャリア支援室を訪れた学生に対して、職員から先に声かけをして入りやすい雰囲気作りをする。 ②ガラス張り等の開放感のある建物への移動を大学本部に要望する。（部屋の閉塞感による利用しづらさについては、従前から指摘され、提案をしてきた。） ③複数名での相談対応を試験的に実施する。	①入室した学生への声かけが職員間で浸透し、学生が気安く利用しやすい雰囲気作りができつつある。 ②部屋の移動については、移動先として最適な施設が見つからず具体化に至らなかったが、閉塞的な現施設の改善に向け、引き続き大学本部への要望を行う。 ③複数名による相談対応については、検討段階において学生のプライバシーの問題が指摘され実施しなかった。学生のニーズとプライバシー保護を並立させた相談方法について、引き続き検討する。
2) 就職相談の予約が取りにくい。 予約制のため相談がしづらい。蔵本地区での時間設定が遅い等の意見があった。一方、就職相談自体については、内容の充実を挙げた回答も多い。	2) の対応計画 ①予約システムでの予約方法を見直す。 ②蔵本地区の就職相談時間を見直す。 ③就職コーディネーターによる随時相談について、周知する。 ④就職相談の人員配置について検討する。	①予約システムを見直し、就職相談の実施日時を1月先まで開示し学生への便宜を図った。 ②④蔵本地区の就職相談体制及び就職相談の人員配置については、来年度から新たにキャリアコーディネーター1名を採用し、充実を図ることとした。 ③就職コーディネーターの空き時間による就職相談については、問い合わせや正規課程のキャリア教育において学生に周知した。
3) 就職ガイダンス・企業説明会の受講機会の多様化に対する対応 蔵本での説明会が少ない。学内説明会は理系がメインで文系のものが少ないといった意見があった。一方、マナー講座や面接練習の充実の指摘もある。	3) の対応計画 ①就職ガイダンス等は十分に開催（年間70回）していることから、授業等との関係で参加できなかった学生にはキャリア支援室に設置しているガイダンス等のDVDの利用を呼びかける。 ②各学部と連携し、ニーズを調査して実施内容を検討する。	①DVDの利用呼びかけを実施したが、利用者は少なかった。今後コンテンツを増やすことやHP等からの配信等を検討する。 ②栄養学生との意見交換会や薬学部就職担当教員へのヒアリングを実施し、医科栄養学科の教員会議では聴取した学生の意見を周知した。また、常三島地区においても総合科学部では就職委員会への陪席、理工学部及び生物資源産業学部では就職担当職員との連携会議を開催した。
4) 就職情報の広報 自分の地域の就職情報がほとんどなかった。徳島、関西以外の病院情報が少ないといった回答がある一方、充実していたと回答した学生も多い。	4) の対応計画 ①就職情報を掲載しているポートフォリオの認知度が高くないことから、ポートフォリオの周知を促す。 ②学生のニーズ調査をし、対応を検討する。	①ポートフォリオについては、キャリア教育の授業やキャリア支援室に来室した学生への宣伝などを通じて広報し、認知度を高める努力を続けた。また、就職情報の広報のため、学生食堂等へのデジタルサイネージの新設を決定した。 ②就職ガイダンスに参加した学生からアンケートを徴収し、ガイダンス等の情報を得た媒体を調べたところ、ポスター等掲示物の割合が大きかったことから、学生食堂へのPOP増設などを実施した。
5) 教員・公務員志望者への支援 授業時間とガイダンスが重なる。公務員のことについて相談できる機会、仕組みが少ない。	5) の対応計画 ①ガイダンスの開催時間について配慮する。 ②公務員志望者への相談についてキャリア支援室の利用を促す。	①公務員講座を実施している大学生協と連携し、ガイダンス開催時間・場所などを検討した。 ②大学生協と連携し、公務員志望の学生にキャリア支援室及び就職ガイダンスの広報の協力を依頼した。